

礼拝プログラム ※主の導きにより変わる事があります

- 黙祷 …………… 御言葉に耳を傾け、心を主に向けましょう。
- *賛美 …………… 179番
- *交読文 …………… 39番
- *使徒信条 …………… 会衆一同
- *頌栄 …………… 174番
- 礼拝のための祈り ……… 働き人 川合ゆきえ
- 賛美 …………… 173番
- メッセージ …………… パウロのような凛々しい働き人になるために(ローマ7:14-8:11)
- 御言葉を適用する祈り … 会衆一同
- 賛美 …………… 210番
- 献金感謝の祈り ……… パスター
- 報告と歓迎 ……………
- *主の祈り …………… 会衆一同
- *祝祷 …………… パスター

祈禱課題

- この教会が神の御声を聞いて御心を行う教会となるように
- 病、貧しさ、悲しみの内にある兄弟姉妹のために
- 兄弟姉妹達がキリストの香りを豊かに世に放ち、仕事、事業が祝福されるように
- 主に忠実で御霊に満ちた奉仕者が70名与えられるように
- 終末の災いに実際に直面している兄弟姉妹の守りのために

祝福の御言葉(下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい)

肉に従う者は肉的なことをもつばら考えますが、御霊に従う者は御霊に属することをひたすら考えます。肉の思いは死であり、御霊による思いは、いのちと平安です。肉の思いは神に対して反抗するものだからです。それは神の律法に服従しません。いや、服従できないのです。もし神の御霊が_____のうちに住んでおられるなら、_____は肉の中にはなく、御霊の中にいるのです。もしキリストが_____のうちに住んでおられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、霊が、義のゆえに生きています。もしイエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、_____のうちに住んでおられるなら、キリスト・イエスを死者の中からよみがえらせた方は、_____のうちに住んでおられる御霊によって、_____の死ぬべきからだをも生かしてくださるのです。(ローマ8:5-11)

今回の韓国では、テフィリンをいち早く取り入れて子供たちを教育しているトオピッ教会の修養会に参加させて頂き、そこの素晴らしい聖徒達と交わりつつ、礼拝や賛美、祈りの時間を共に過ごし、体験してきた。修養会では、使徒行伝の全部、すなわち、1章から28章の全てを、一日3回合計9時間の講義を通してみっちり学び、各講義の後は、学んだ内容を自分自身に適用するための祈りを教会全体で行っていた。使徒行伝の初代教会の働き人達は、聖霊によって変えられ、迫害する人々の前で凛々しく大胆に立ってイエス・キリストの福音を全世界へと伝えて行ったと同時に、罪や誘惑の問題に対し、真剣に取り組んで行った。今回、特にこの罪や誘惑の問題への対処についての示唆を頂いたので、分かち合いたい。

使徒行伝で特筆すべき人物は、やはり使徒パウロだろう。私達キリスト者は、彼の超人的な働きと、強く凛々しく大胆なあり方に憧れる。彼の強さの秘密は一体どこにあり、どうすれば彼のようになれるのだろう。私達も彼のようになりたく願っているのに、自分を見るならば、弱く罪深い所ばかりが目立ってしまう。為すべき良い事は分かっているのに、それができず、かえって、したくない悪を行ってしまう。この葛藤からどうすれば開放されるのか。実はパウロもずっと同じこの悩みをし、ずっと同じ戦いをして来たのだ。彼も同じ葛藤をしている事を、ローマ人への手紙(7:14-15)にて綴っている。この手紙が書かれたのは彼の初心の時ではない。第3次伝道旅行の時、すなわち信仰者としても働き人としても誰よりベテランの域に差し掛かった頃に、書かれたものだ。私達がまさに抱えている葛藤を、彼もずっと抱え戦っていたのだ。彼はどうやって、この問題と対処して行ったのかを見る前に、まず知って置かなくてはならない原理がある。「そこで、この事(罪)をしているのは、もはやわたしではなく、わたしの内に宿っている罪である。」(7:17)ここから、「罪≠私」という原理を見出す。私達が対処すべき「罪」は、「自分」とは別物であり、打ち叩くべきは、罪を犯す「自分」ではなく、自分に罪を犯させる「罪」である。どう対処したら良いのだろう。

キリスト者が葛藤する仕組みと原理は、7章21-23節に記されている。この節で「原理」とか「律法」とか訳されている日本語は、皆、同じギリシヤ語「ノモス」という言葉で、全部「法則」という意味である。これらの節の中から、3種類の法則を見出す。第一の法則は「神の法則」。しかし、からだの中に異なった法則があって、「心の法則」(第三の法則)に戦いを挑み、「罪の法則」(第二の法則)のどりにしている。これが葛藤の原因であり、これら三つの法則のせめぎあいがある為に、したい善が出来ないのだ。つまり事は、頑張りや人格や不屈の精神などの問題ではなく、どの法則に自分を委ねるか、の問題である。パウロは24節で、自分はみじめだと叫んでいるのに、25節では喜びに溢れ感謝を叫んでいるのはなぜか？それは、みじめな人間の有り様に対する解決法を見出したからだ。そう、対処方法があるのだ！「キリスト・イエスにある”いのちの御霊の法則”は、罪と死との法則からあなたを解放した」(ローマ8:2)この第四の法則”いのちの御霊の法則”こそ、罪と死の法則に対抗する唯一の手段である。全ての人は、重力の法則に縛られ、地上から離れられない。しかし飛行機に乗る事で地上を離れる事が出来るように、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則に乗る事で、私達も罪から離れる事が出来るのだ。どうしたらこの法則に乗れる事が出来るのだろうか？それは「継続的な選択」の問題であり、肉によらず聖霊によって歩み続ける「選択」を日々、し続ける事によって、である。「これは律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである。」(8:4)命の御霊の法則に乗り続けるには、肉によらず、聖霊に従って歩む選択をし続ける事によって、である。パウロには不屈の精神があったから頑張れたのではなく、「聖霊に従う選択」をし続けたから、全ての迫害や困難、問題に対処できる「御霊」の知恵と力が与えられ続け、主にあつてそれら乗り越えられたのだ。私達はアダム以来、選択によって罪と死を取り入れてしまった。故に、選択によって、救われるのだ。私達の死ぬべきこの体を、罪の支配や情欲として「委ねない」と選択し、死人の中から生かされた者として、自分自身を神に捧げ、自分の体を義の武器として神に捧げる事を、意思で決定する事である。もし私達が、パウロの不屈の強さを纏え、と言われるなら絶望しか無いが、日々、御霊を選択し続ける事によってパウロのようになれるのだ。御言葉によって正しく肉の道と霊の道を仕分けし、霊に従って歩む事を選択し続け、パウロのようにいのちに歩む皆さんでありますように！イエス様のお名前によって祝福します！

横浜天声キリスト教会

礼拝 週報

集会案内

各礼拝はインターネットでライブ中継しております → <http://ustre.am/Ydeh> (Yは大文字)

日曜礼拝

1部礼拝 10:30 賛美 11:00 礼拝
食事/フェローシップ 12:00～
2部礼拝(韓国語通訳有) 14:00
聖書の学び 15:00

金曜徹夜祈禱会 21:00～

日々の集会

月～金 早天祈禱会 5:00～
火・木・金 賛美と祈りの集会 13:00～
火～木 夜の祈禱会 19:30～

水曜集会

1部 13:00～
2部 19:30～

アクセス

横浜市営地下鉄・伊勢佐木長者町駅
6番B出口を出てまっすぐ徒歩5分
JR・関内駅より徒歩10分
京急線・日ノ出町駅より徒歩10分

関内駅から伸びる大通公園沿い、
伊勢佐木警察署の向かい対角線上にあり、
1Fがファミリーマートになっております。



聖書メッセージを携帯で
聖書メッセージをメールで
毎日携帯にお届けします。
左記コードを読み込み、
空メールを送信するだけ！



〒231-0058

パスター: 林和也

神奈川県横浜市中区弥生町2-17 ストックタワー大通公園 I-201

TEL/FAX: 045-326-6211

Homepage: <http://voh.plala.jp/>

email: ephes_03-tensei@yahoo.co.jp



モバイルサイト

